



【ステージⅢ】少年後期(13〜15歳)  
 同じ目線でアドバイス

保護者や指導者の皆さま、ここまで長い子育て坂を登り、頂上もかすかに見えてきましたね。完璧でなくても概ね健康で明るい子に育っていれば十分だと思います。しかし、この世代の子どもたちは思春期特有の様々な精神的苦悩を抱えています。不登校やいじめなどの問題行動も他人事ではなく、一歩間違えれば取り返しつかない事態も起こりえる不安定な世代です。親の出番が少なくなっているように思われがちですが、このステージでの親の役割が重要であることには変わりありません。

では、どうすれば我が子の健全な成長を後押しできるのでしょうか。まず理想的な子育ての前提になるのは『心休まる穏やかな家庭環境』の存在です。これが実現できれば親の役割の大部分は終わったと言っても過言ではありません。また、芸術やスポーツ分野などで、すでに独立して寮生活や一人暮らしを始める子もいるでしょう。その場合は、学校の先生や部活の監督さん、寮母さんなど信頼できる大人も重要な役割を担っています。

ではこのステージの特徴と指導のポイントについて話を進めます。

1 思春期特有の心のバランスが不安定な子どもたちへの関わり方

私たちが我が子より優れているのは人生経験の多さだけかもしれません。私たちは様々な挫折や難問と闘いながら生きてきました。比べて、この世代の子どもたちは皆、人生の初心者です。初心者は何をやるにもおっかなびっくり。それ故に、大人の過去の経験が大いに役に立ちます。背中を押してくれる頼りがいのある存在は、子どもの心の安定にとって極めて重要。ぜひ、上から目線ではなく自分の経験を踏まえて適切なアドバイスをしてください。

私は『名選手、必ずしも名監督にあらず』という名言が大好きです。『名選手でなくても名監督になれる』ということでもあり、教師を長年続けられたものもこの名言に勇気づけられたからです。『労せず手に入れた成功体験よりも多くの失敗や挫折の経験が、不器用でも指導の役に立つ』と信じています。

2 夢や希望と能力とのギャップ、得意分野や好きな事で迷う我が子への助言

夢のための夢ではなく現実的な夢に近づける！即ち、自分を取り巻く環境や自分の能力を考慮しながら、将来を見つめる時期でもあります。また、同時に劣等感や自己否定という後ろ向きな自分との戦いも始まります。『好きな事が見つかり、そのことに没頭できる』ことが理想ですが、簡単ではありません。自分は何が得意で何に向いているの、なかなか見出せないのが現実。そうした難問を抱える子どもとの接し方は『我が子への敬意』が大前提となります。一人の人格を持った大人として接し、『親の考えを押し付けるのではなく、同じ目線で悩みを共有すること』です。子育ての禁じ手『けなす、決めつける、比べる』ことは絶対にやめましょう。わが子の背中をポンと押すことを主眼に助言を心がけると良いと思います。

3 真実を知りたいという知的欲求が高まり賢さが増す絶対のチャンス

少年前期は『賢さよりも優しさを優先して』とお話ししましたが、少年後期では高校受験を間近に控え、一気に知識優先の環境に入ります。学習内容もやや専門性を帯び、知的好奇心も刺激され、知的欲求も高まります。他人とは違う個性も一段と明確になってきます。この絶対の機会を逃してはなりません。このやる気満々な意欲こそ賢さを磨く原点でもあり、個性を伸ばすチャンスでもあります。受験に備えることは勿論大切ですが、それよりも自分は将来何をして生きていくのかを子どもたちは真剣に考えています。大事なことは『学力で進学先を選ぶのではなく、興味関心や個性を優先に進路を考える』ことなのです。これを肝に銘じ適切な助言を心がけましょう。

次回は青年前期です。

